

2016年8月1日 日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

＜発表＞

・映画「ルドルフとイッパイアッテナ」公開

8月6日に公開の「ルドルフとイッパイアッテナ」は日本テレビの幹事作品で、井上真央さん、鈴木亮平さんに声優をしていただいた。ぜひ映画館に足を運んでいただきたい。

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週で4週連続三冠王。年間30週のうち27回目の獲得。7月の月間視聴率も三冠王で、月間では32カ月連続の獲得。

・編成戦略とHUTの低下に関して

改編期における番組改編を含めた強化のほか、何年も放送しているレギュラーパン組もタイトルは変えないものの、内容は日々新しくしている。

ひととよりHUTが低下しているということに関しては、私たちも努力をさらにしていくべきだと思う。視聴者に支持される番組制作に関しては、現場の力を信頼している。

・今夏の番組に関して

「THE MUSIC DAY」は毎夏の放送が定着してきており、皆さんに支持される番組に育ってきた。アーティストの顔ぶれやステージ演出も含めた中継方法なども、その年その年のテーマで作っている。さらに、データ放送と連動した取り組み等も行い、今年の“嵐リリックビンゴ”では、参加者が300万人にも達した。

日本テレビ放送のリオデジャネイロオリンピック2016での注目競技はレスリング女子で、18日の21時から決勝まで生中継で行う予定だ。53キロ級には吉田沙保里さんも出場する。さらに女子200mバタフライなど競泳の決勝も8月11日に放送する。今回は嵐の櫻井翔さんがメインキャスターで、現地中継や本社スタジオにもご出演いただく。また、明石家さんまさんにも応援していただく。

さらに、戦後71年目の夏を迎えて、NNNドキュメントでは7月31日に広島テレビ制作の「隠された被爆米兵」を放送し、8月7日には秋田放送制作の「戦後開拓70年」を放送予定だ。ニュース番組は8月5日放送のnews every.で鈴江キャスターが広島から広島特集を

お伝えし、8月9日にも長崎から被爆特集をお伝えする。ZEROでもキャスターが現地からリポートをする予定。

・「24時間テレビ」について

今年も様々な企画が進んでおり、素晴らしい24時間テレビになると思う。ドラマはNEWSの加藤シゲアキさんにお出でいただき。またマラソンは、笑点50年という節目の年に、林家たい平さんに走っていただき。私もワクワクするような気持ちだ。十分準備のうえ、ぜひ完走していただきたい。

2. 営業状況

・放送収入

第一四半期の決算はすでに公表した通り。タイムもスポットも増収だが、8月以降はオリンピックの影響、日本経済全体の景気状況もあるので先が読めない。これまでの足取りは三冠王をかなりの回数獲得できたこともあり比較的好調で、タイムの売り上げも前年を超える水準だった。

・放送外収入

今年度4月以降の映画は総じて順調。イベントも「アニー」「俺たちの国芳わたしの国貞展」等があり、非常に好調だった。第一四半期は昨年に比して大型案件が少なかったため収入は微減したが昨年以上の利益を出した。

3. その他

・「超☆汐留パラダイス！」「ドラゴンクエスト ライブスペクタクルツアーアイ」等夏のイベントについて

昨夏リニューアルした「超☆汐留パラダイス！」は今年が2年目。昨年は207万人を動員した。今年はそれを上回りたい。これは日本テレビのPRのために行っているイベントで、様々な番組や催しものに触れて、日本テレビのファンになっていただきたい。人気の「笑ってはいけないガキ使バス」をはじめ、今年は新たに「アンパンマンスノーパーク」を設置し、人工降雪機で雪を降らせている。お子さんたちにも好評だ。

またこの夏に力を入れているアリーナショー「ドラゴンクエスト ライブスペクタクルツアーアイ」は本当に素晴らしい演出で、会場全体が一体感に包まれている。最後には号泣しているお客様もいた。さらに地元の高校生のプラスバンド、キッズダンサーたちも非常に

ショーを盛り上げていた。売り上げも好調だ。Twitter や Facebook 等の SNS で、観覧した方が高い評価を発信し、拡散してくれていることによって、この後の福岡から始まる公演に向かって券売が伸びている。8 月いっぱいの開催予定なのでぜひお出掛けいただきたい。

・「同時配信」「NHK4K・8K 試験放送開始」について

NHK の取り組んでいるインターネット同時配信に関しては、日本テレビのみならず民放各社も熊本の地震の時にはニュースで取り組んだ。ただ、権利問題やネットワーク各社の放送における県域免許の問題等々がある民放は NHK とは事情が違う。そういう課題をクリアしないと、放送を直ちにネットで配信はできない。

NHK は 4K・8K の試験放送を開始したが、NHK と民放では立場が異なるため、事業化についてはそれぞれの事情に基づいた判断が必要だ。技術革新により映像がより高精細になっていくということは、大きな目で見れば素晴らしいことだ。また、4K、8K と一括りにされることが多いが、民放に関しては 8K はほとんど視野に入っていないと思う。当面の問題は 4K だ。その 4K もまだ十分受信環境が整っておらず、受信機の普及等については NHK に先導的役割を果たしていただきたい。

・日テレラボについて

6 月に日テレラボという新組織ができた。その目的はテレビ事業や日本テレビの将来を根本的なところから勉強するというところにある。マスメディアは曲がり角に来ていると何年も前から言われているし、社内で研究もしているが、どの方向に進むべきかを考えることを使命としたセクションを作りたかった。手掛かりとして、編成局マーケティング部という調査部門を日テレラボに移して、そこを中核として放送事業を研究し、あるいは放送のみならず、様々なデバイスを使った事業展開を中長期的な視点で研究、情報収集して、その知見を会社全体に伝えてほしいと期待している。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長
福田博之 執行役員 編成局長

(了)